

園・学校・児童施設 のための
アレルギー緊急時対応マニュアル活用方法
(2019)



香川県小児科医会食物アレルギー対策委員会編

はじめに

アレルギーを持つこどもは増えています。園・学校でのアレルギー症状出現時、だれもがあわてず冷静に対処できるよう、香川県小児科医会食物アレルギー対策委員会では2014年から「アレルギー緊急時対応マニュアル」を作成し、配布しています。実際この数年の間に、マニュアルを使用して適切に対処していただいた事例がいくつかありました。園・学校関係者の方々の助けになっていることは委員会としてうれしく思っています。

これまでマニュアルの使用法等について詳しくまとめられたものがありませんでした。そこで今回、マニュアルの使用法についてまとめたものを作成しました。またアレルギー対応のための準備や学習の仕方などについても記載しています。園・学校におけるアレルギー対応のさらなる理解にぜひお役立てください。

香川県小児科医会食物アレルギー対策委員会 委員長
平場一美

園・学校におけるアレルギー緊急時対応のポイント

① 食物アレルギー症状への気づきについて

とくに食物アレルギーをもつ児童が、何らかの不調を訴えたとき「アレルギー症状かもしれない」と考える事が大切です。また重症化を見逃さないためには、ややオーバーに対応しておくことが重要です。

② アレルギー症状への対応時の教職員の役割及び具体的な準備物について

緊急時のチームワークは大切です。軽症と思っても一人では対応せず、連絡・相談を行うことが重要です。マニュアルや個別対応シートなど、緊急時必要な準備物については、共通認識をもって準備しておきましょう。シミュレーション訓練で本当に準備できているか、理解できているかを確認するとよいでしょう。

③ エピペン®の取扱いや管理について

児童のエピペン®をどこに置いてあるのか分からなければエピペン®は使えません。また実際にエピペン®を児童に使うことはほとんどないので、経験して慣れることはできません。従って緊急時を想定して日ごろからエピペン®トレーナーを使って練習しておくしかありません。

④ 緊急性が高いアレルギー症状への気づきや、エピペン®投与のタイミングについて

マニュアルの使い方を理解し、手順通りに進めることでタイミングを逃さないような対処ができることが期待されます。教職員は医療者ではありませんので100%的確な対処は困難です。また重症者を見逃さないために、ややオーバーに対処するという考え方も大切です。

⑤ アナフィラキシー及びアナフィラキシーショックへの対応について

アナフィラキシーやアナフィラキシーショックは急速に発生します。エピペン®は使うとなったら速やかに使用します。また救急車も速やかに要請できるようにしておきます。心肺蘇生・AEDの手順についても訓練しておく必要があります。

危機意識・危機管理が子どもたちの命を救います

目次

1. まず準備をしましょう	5
2. アレルギー緊急時対応マニュアルの使用方法	6
3. 個別対応シートの使用法	7
4. 症状チェックシートの使用法	8
5. 必要書類の管理法	9
6. 使用例	9
7. 学習法	13



1. まず準備をしましょう

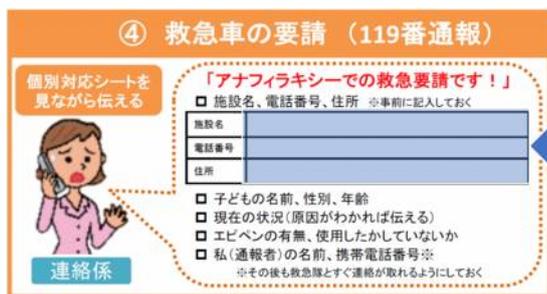
(A) アレルギー緊急事態用マニュアル (B) 個別対応シート&症状チェックシート の準備をします。各様式のPDFファイルは、「香川県小児科医会ホームページ」の「活動成果・資料：食物アレルギー対策委員会活動成果」よりフリーでダウンロードしていただけます。できれば改訂版である2017版の方をお使いください。

(A) アレルギー緊急時対応マニュアル

- ① カラー・A3用紙・表裏印刷します。
- ② 「救急車の要請」の施設名・電話番号・住所について記入します。慌てた時でも、書いてある通りに読み上げれば間違いありません。
- ③ その後ラミネートしておく取り扱いしやすくなります。

(表)

(裏)



施設情報を記入しておきましょう

(B) 個別対応シート&症状チェックシート

横並びでカラー・A3で印刷します。個別対応シートの必要項目を記入したあと、数枚カラーコピーしておき、施設ごとのルールに従って保管しますが、緊急時たれもがすぐ取り出して使用できるようにしておきましょう。

緊急時、左側の個別対応シートで情報を把握しながら右側の症状チェックシートで症状をチェックする（症状チェックシートの使い方参照）ことができます。

個別対応シート

学校生活管理指導表(除去食確認シート等)が提出・更新されたら作成しておきましょう。薬を持っていなくても作成しましょう

作成日: 年 月 日 作成者:

年 組 子どもの名前: 担任の名前:

除去している食物

施設名 住所 消防署との情報共有: あり(※)・なし
最寄りの消防署: 救急車到着までの時間: 約()分

※もし、救急車を要請した場合、どのくらいかかるのかを最寄りの消防署に聞いておきましょう。

エピペン (0.15 mg・0.3 mg) 保管場所
あり・なし 緑色 黄色

薬の種類	薬の名前	1回使用量	保管場所
抗ヒスタミン薬	あり・なし		
ステロイド	あり・なし		
気管支拡張薬(内服)	あり・なし		
気管支拡張薬(吸入)	あり・なし		

※1回使用量は5歳未満: 2.5 mg 5歳以上: 5 mg などと記載しましょう。吸入薬は1回1吸入などと記載しましょう。

保護者	①	氏名	(携帯・自宅・職場) (続柄)
	②	氏名	(携帯・自宅・職場) (続柄)

病院	①	病院名	子どもの患者の番号*	主治医名
	②	病院名 <th>子どもの患者の番号*</th> <th>主治医名</th>	子どもの患者の番号*	主治医名

*保護者に確認し、記載しておけば施設から連絡する際に立ちます。薬法又は最寄りの救急病院です。

除去食物など児童の情報に変更があれば
あたらしく作成しましょう

とくにエピペン®を携帯している児童の場合、
消防署と事前に情報を共有しておくことを推奨しています

保管場所はわかりやすく記載しましょう
エピペン®と内服薬等は同じところに
保管しておくとうわかりやすいでしょう

緊急時どの医療機関を受診するのかは
必ず確認しておきましょう



4. 症状チェックシートでの使用方法

- ① 今あるアレルギー症状が表のどこに書いてあるのかを見つけます。
- ② 今ある症状のところに☑をいれ、今の時刻を記入します。
- ③ その症状があればどのように対応をするべきか、その下に書いてあるので、書いてある通りに行います。行った対応に☑をいれ、実施時刻を記入します。
- ④ 新しい症状があれば、③と同様なことを行います。
- ⑤ 5分おきに症状の進行・変化がないかチェックします。

症状は、左に行くほど、上に行くほど重くなっています。左側の赤いところに書いてある症状がひとつでもあれば、すぐエピペン®を使ったり、急いで救急車を呼んだりする必要があります。

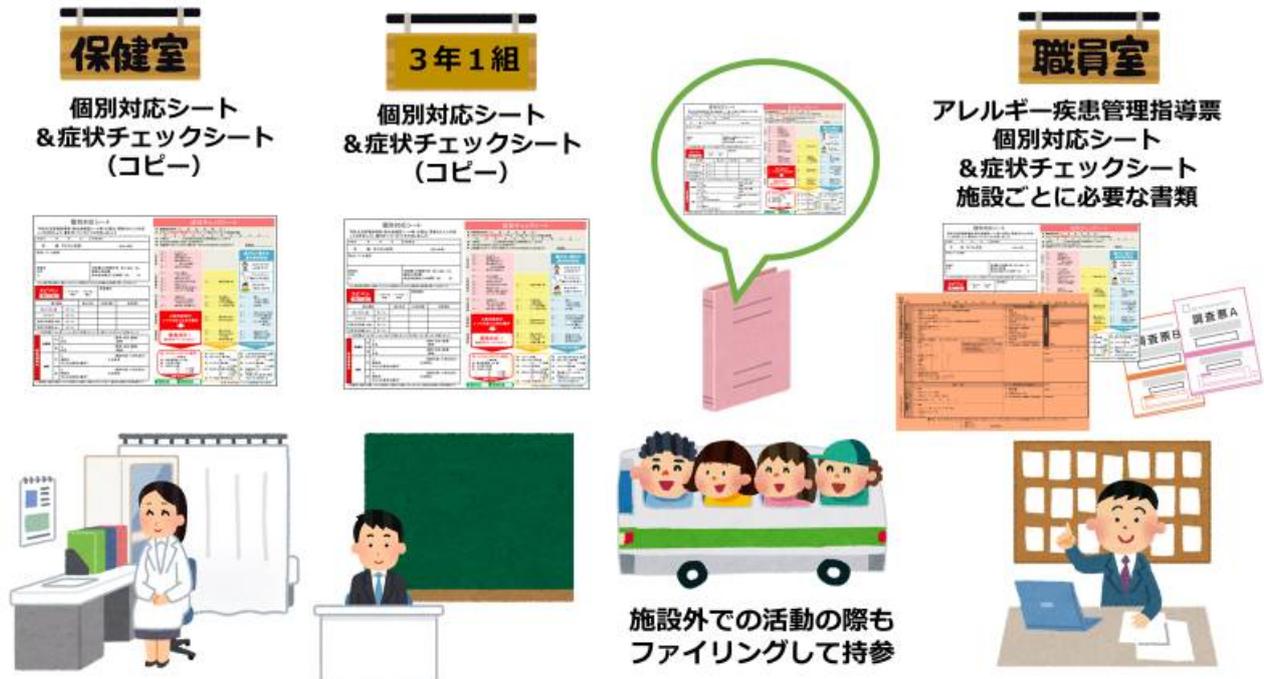


症状チェックシートでは、今の症状はこれに相当するから、書いてある通りにこの対応を行います
(根拠をもって行動できる)



5. 必要書類の管理法

個別対応シート&症状チェックシートは、緊急時使用するものなので、記入後数枚カラーコピーし、保健室や教室にも置いておくことを推奨しています。また、郊外学習など施設を離れるときもファイリングして持参しておくといざというとき役に立ちます。



6. 使用例

給食終了後の13時すぎ、山田先生は3年1組の教室で「かゆい」と言っている児童を発見しました。顔や腕に数個蚊にかまれたようなふくらんだ発疹があり、じんましんと考えられました。名札で児童の名前を確認すると「3年1組 香川太郎」と書いてあります。山田先生は3年1組の担任ではありません。香川君に食物アレルギーがあるかどうかわかりませんでしたでしたが、給食後のじんましんということで、教室の壁に掛けてある「アレルギー緊急時対応マニュアル」を手に取りました。「こどもから目を離さずに、少なくとも1人の教職員に応援をたのむ」となっているため、保健室の養護教諭の田中先生に「3年1組の教室で香川太郎君にじんましんがでていますが、教室に来ていただけますか？」と電話をしました。次に「発見者は緊急性の高い症状がないか5分以内に判断する」に従い、今ある症状をチェックしました。13症状すべてチェックしましたが、いずれの症状もなく、「NO」の矢印の方に進みます。

「NO」の場合は「症状チェックシートどおりに対応」となっています。教室では担任の机の中に保管することになってはいますが、すぐに見つけることはできませんでした。その時養

護教諭の田中先生が教室に到着しました。「香川君は、乳製品のアレルギーがあってエピペン®を持っているんです」田中先生が保健室から持参した「個別対応シート」を見るとたしかにそうになっています。

「症状チェックシート」は「個別対応シート」と横並びでA3で印刷されています。そこで山田先生は今の症状がどれに相当するかをすぐ確認しました。じんましんが何個か出ていて、少しかゆい程度のようなので、「数個のじんましん・軽度のかゆみ」にチェックを入れ13時5分と記入しました。すべき対応は、抗ヒスタミン薬の内服と書いてあります。

左側の個別対応シートを見ると「抗ヒスタミン薬はアレロック®を携帯していて、本人のランドセルの中の緑のケースに入っている」「内服量は1回1錠」と書いてありました。そこでランドセルの中から緑のケースをみつけ、アレロック®を1錠とりだし内服させ、「13時8分」と記入しました。その後は田中先生とともに保健室に移動して「5分おきに症状をチェックする」こととしました。田中先生が児童の観察を行い、山田先生は記録係をすることになりました。

保健室に移動後もじんましんはすこしずつ増え、13時17分ごろには全身に広がってしまいました。かゆみはそれほど強くなさそうですが、香川君は少し元気がないように見えます。症状チェックシートに13時17分と記入し「全身に広がるじんましん」にチェックを入れます。すべき対応はまず「エピペン®を準備する」なので、緑のケースをあけてエピペンを取り出し準備しました。抗ヒスタミン薬はすでに内服させており、ステロイド薬も気管支拡張薬も携帯していないので飛ばして読みます。「すぐ受診」となっていますが、先ほど連絡したばかりで家族はまだ到着しません。

した。「救急車はもう呼んでいるし、あとは安静を保つ体位で救急車を待ちましょう」

3分後、救急車が到着しました。「エピペン®を使ったおかげで症状は落ち着いているようですね。搬送先は香川病院と情報提供を受けていますがあっていますか？」山田先生は個別対応シートを確認して間違いがないことを伝えました。「病院からは受け入れOKとのことですので、今から搬送します」田中先生が救急車に同乗し、記入済の症状チェックシートと使用済みのエピペン®をもって病院へ向かうこととなりました。

症状チェックシートによるとこれはエピペン®を使用すべき症状です！

⑦ 13:30 ひどい咳になり、児童から「息がえらい」との訴えがあった

↓

⑧ 13:32 エピペン®を使用（緊急時対応マニュアルの【エピペン®の手順】を確認）

↓

⑨ 安静を保つ体位をとり待機した（緊急時対応マニュアルの【安静を保つ体位】を確認）

症状チェックシート

観察開始時間 2019年 2月 10日 13時 05分

● ①から5分おきに症状をチェックする → 下記にチェックした時間を記載
 (13:10 13:15 13:20 13:25)

● 下表の()には症状が出現した時間を記入し、必ず
 それぞれの症状に対応した対応を行う

● 内服薬やエピペン®がない場合は、それ以外の記された対応を行う

記録係 (山田)

全身症状	<input type="checkbox"/> () ぐったり <input type="checkbox"/> () 意識もうろう <input type="checkbox"/> () 顔が蒼白 <input type="checkbox"/> () 唇が紫が青い	新しい場合の基本的対処法	<input type="checkbox"/> 口のイガイガ → 口をすすぐ <input type="checkbox"/> アレルゲンに触れた手を洗う <input type="checkbox"/> 目がかゆい → 洗う/冷やす
呼吸症状	<input type="checkbox"/> () のどの腫れ しめつけられる 声がかすめる <input type="checkbox"/> () 声がでるような咳 <input checked="" type="checkbox"/> 13:30 息がえらい <input checked="" type="checkbox"/> 13:30 持続する強い咳込み <input type="checkbox"/> () セーソー呼吸	<input type="checkbox"/> () 軽度の軽い咳 13:20	
消化器症状	<input type="checkbox"/> () 持続する強いおなかの痛み (がまんできない) <input type="checkbox"/> () 繰り返す嘔吐	<input type="checkbox"/> () 中等度のおなかの痛み (がまんできる) <input type="checkbox"/> () 11-2回の嘔吐	<input type="checkbox"/> () 軽いおなかの痛み (がまんできる) <input type="checkbox"/> () 吐き気
循環器症状	<input type="checkbox"/> () 1つでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> () 胸全体のほれ <input type="checkbox"/> () 左上のほれ	<input type="checkbox"/> () 目のかゆみ・充血 <input type="checkbox"/> () 口の中の違和感 -唇のほれ <input type="checkbox"/> () しやみ・鼻水 -鼻づまり
皮膚症状	<input type="checkbox"/> () 上記の症状が1つでもあてはまる場合	<input checked="" type="checkbox"/> 13:17 強いかゆみ 全身に出がる <input type="checkbox"/> () 全身が真っ赤	<input checked="" type="checkbox"/> 13:05 軽度のかゆみ <input checked="" type="checkbox"/> 13:05 数個のじんまし 散発的な赤み
意識状態	<input type="checkbox"/> () 1つでもあてはまる場合		

緊急対応！
緊急対応マニュアルをみて！

↑
 ⑧ たがちにエピペン®使用 (13:32) (緊急時対応マニュアル参照)
 ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院
 ● 搬送先香川病院 ● 搬送先香川病院

● エピペン®使用 (13:32) (緊急時対応マニュアル参照)
 ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

● 上記「基本的対処法」実施 (13:08) ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

● 上記「基本的対処法」実施 (13:08) ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

③ エピペン®の手順
子どもに誤飲させないで、できる限り大人の人で対応しましょう

● エピペン®を打ちやすい体位をとる

● エピペン®を打つ位置を確認

● エピペン®を打つ

● その後

分らなければ
みればよい
書いてある
とおりにすれば
よい

病院へ到着しました。医師より「いつどんな症状がでたのか教えてもらえますか？」と聞かれたので、田中先生は症状チェックシートを医師に手渡しました。「症状チェックシートですね。拝見します・・・なるほど。じんましがではじめたおよそ30分後の呼吸困難になってエピペン®を使用したんですね。適切な対応のおかげで、香川君はすっかり良くなっています。もう大丈夫ですよ。」

エピペン®を使った後は医療機関で適切な治療をします

症状チェックシート

観察開始時間 2019年 2月 10日 13時 05分

● ①から5分おきに症状をチェックする → 下記にチェックした時間を記載
 (13:10 13:15 13:20 13:25)

● 下表の()には症状が出現した時間を記入し、必ず
 それぞれの症状に対応した対応を行う

● 内服薬やエピペン®がない場合は、それ以外の記された対応を行う

記録係 (山田)

全身症状	<input type="checkbox"/> () ぐったり <input type="checkbox"/> () 意識もうろう <input type="checkbox"/> () 顔が蒼白 <input type="checkbox"/> () 唇が紫が青い	新しい場合の基本的対処法	<input type="checkbox"/> 口のイガイガ → 口をすすぐ <input type="checkbox"/> アレルゲンに触れた手を洗う <input type="checkbox"/> 目がかゆい → 洗う/冷やす
呼吸症状	<input type="checkbox"/> () のどの腫れ しめつけられる 声がかすめる <input type="checkbox"/> () 声がでるような咳 <input checked="" type="checkbox"/> 13:30 息がえらい <input checked="" type="checkbox"/> 13:30 持続する強い咳込み <input type="checkbox"/> () セーソー呼吸	<input type="checkbox"/> () 軽度の軽い咳 13:20	
消化器症状	<input type="checkbox"/> () 持続する強いおなかの痛み (がまんできない) <input type="checkbox"/> () 繰り返す嘔吐	<input type="checkbox"/> () 中等度のおなかの痛み (がまんできる) <input type="checkbox"/> () 11-2回の嘔吐	<input type="checkbox"/> () 軽いおなかの痛み (がまんできる) <input type="checkbox"/> () 吐き気
循環器症状	<input type="checkbox"/> () 1つでもあてはまる場合	<input type="checkbox"/> () 胸全体のほれ <input type="checkbox"/> () 左上のほれ	<input type="checkbox"/> () 目のかゆみ・充血 <input type="checkbox"/> () 口の中の違和感 -唇のほれ <input type="checkbox"/> () しやみ・鼻水 -鼻づまり
皮膚症状	<input type="checkbox"/> () 上記の症状が1つでもあてはまる場合	<input checked="" type="checkbox"/> 13:17 強いかゆみ 全身に出がる <input type="checkbox"/> () 全身が真っ赤	<input checked="" type="checkbox"/> 13:05 軽度のかゆみ <input checked="" type="checkbox"/> 13:05 数個のじんまし 散発的な赤み
意識状態	<input type="checkbox"/> () 1つでもあてはまる場合		

緊急対応！
緊急対応マニュアルをみて！

↑
 ⑧ たがちにエピペン®使用 (13:32) (緊急時対応マニュアル参照)
 ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院
 ● 搬送先香川病院 ● 搬送先香川病院

● エピペン®使用 (13:32) (緊急時対応マニュアル参照)
 ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

● 上記「基本的対処法」実施 (13:08) ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

● 上記「基本的対処法」実施 (13:08) ● 救急車到着 (13:35) ● 搬送先香川病院

わたしたち医師にも「症状チェックシート」はわかりやすい！

7. 学習法

(1) から (4) までを順番に実施しましょう。(5) は可能なら実施しましょう。(動画は、you tube「香川県食物アレルギー」で検索するか、ここに記載している QR コードから視聴します。



エピペン®の使い方 (26分)



緊急時対応マニュアルの使い方 (14分)



緊急時シミュレーション：小学校 (13分)



緊急時シミュレーション：園 (13分)



エピペン®実写 (1分)



(1) エピペン®について動画で学習する

「エピペン®の使い方」動画では、①エピペン®についての一般的な説明、②使用方法、③学校におけるシミュレーション動画を見ることができます。「エピペン®実写」では本物のエピペン®で実際の使用方法の動画をみることができます。「エピペン®の使い方」①②と「エピペン®実写」を視聴したら、次に進みます。

エピペン®の使い方



エピペン®実写



(2) エピペン®トレーナーを用いて手順の練習をする

3人一組で練習します。エピペン®トレーナーを準備しましょう。それぞれ、児童、エピペン®使用者、介助者の役割を演じます。児童役がエピペン®を使用すべきアレルギー症

状がでたという設定で、「アレルギー緊急時対応マニュアル」の【エピペン®の手順】を、使用者・介助者2人で、上から順に読み上げながら実施してみます。すべて読み上げなくても実施可能かもしれませんが、ひとつひとつの手順を確認しながら練習することに意味があります。



(3) 「アレルギー緊急時対応マニュアルの使い方」の動画を見る

動画で緊急時対応マニュアル、個別対応シート&症状チェックシートの使い方を学習します。動画では初版のマニュアル等を使用して作成されています。



(4) シミュレーション動画を見る

次に実際の緊急時を想定したシミュレーション動画で、緊急時対応やマニュアルの使い方を学習します。委員会では、学校と園バージョンのもの2つを作成しています。緊急時のための準備は、具体的にどのようなことに対して準備しているのか、なにが重要なのか、考えながら視聴してください。

その他に、文部省が作成した教育動画（小学校バージョン）があり、you tube「文部省

「食物アレルギー」で検索すると視聴できます。このシミュレーションではマニュアル等が出てきませんが、適切な緊急時対応について学習することができます。動画を見ながら適切な対応ができていたか、グループディスカッションを行うことができる流れになっています。

環境再生機構のHPからは、幼稚園・保育施設での緊急時対応を想定した教育動画を見ることができます。手間や料金はかかりませんが登録をしてから視聴します。

委員会作成：園におけるシミュレーション



エピペンストーリーのみ保護動画11分

文部科学省の教育動画（学校バージョン）



委員会作成：学校におけるシミュレーション



エピペンストーリーのみ小学校13分

環境再生保全機構の教育動画（園バージョン）



(5) 実際にシミュレーション訓練を行う

施設内での緊急時を想定して、シミュレーション訓練を行うとより効果的です。テストと同じで理解できていない部分がはっきりわかります。できなかった部分を施設内で話し合い、どのような対応をすべきだったか、施設の準備として足りないものはないかなどを話し合います。

ここでは、シナリオAは学校における対応例、Bは園における対応例を示しています。いずれも課題のある対応をしています。どこに課題があるのか、どのような対応をすべきなのか、話し合ってみましょう。

【シナリオA】

(場面)

給食後、教室で気分が悪くなった小学校3年生の生徒A君をB先生が発見します。A君はエピペン®の保有者で、自分のランドセルの中にエピペン®を持っています。今日は学級担任と栄養教諭は出張で不在です。養護教諭は他の生徒の対応で病院に付き添っています。

(役割)

A 君：食物アレルギー、アナフィラキシーに対してエピペン®対応をするように管理指導表を提出している生徒

B 先生：たまたまA君を発見（A君が配慮を要する生徒という認識がない）

C 先生：隣の教室にいた先生（A君が配慮を要する生徒だとなんとなく認識している）

D 君：A君と一緒にいた生徒

(シナリオ)

D 君「B先生、A君がおなかが痛いです！」

B 先生「大丈夫か？」

A 君「はい、まあ大丈夫です。いたた…」

B 先生「トイレに行ってみたら？」

A 君「はい……ゴホゴホ（咳をする）」

D 君「給食を食べたちょっと後から痛がってるんです。」

A 君（咳込み、お腹も痛そう）「なんかえらい…」

C 先生「どうかしましたか？」

B 先生「A君、お腹が痛いそうなんです。トイレに行くように促しているんですが。」

C 先生「A君って、食物アレルギーがあるんじゃないんですか？…そうだ、エピペン®持ってませんでしたか？」

B 先生「えっ？そうでしたっけ？」

C 先生「たしか…エピペン®はランドセルの中に入れてあると職員会議で言ってましたけど」

B 先生「もしかしてエピペン®使った方がいいんですかね？今日は担任も養護教諭の先生もいないんですよ！」

A 君「…（しんどそうに咳き込みお腹を抱える）」

C 先生「D君、職員室に行ってだれかほかの先生を呼んできてくれる？」

D 君「わかりました！」（職員室へ向かう）

B 先生「どうしましょう。お腹が苦しそうで、顔色も悪くなってきましたし…」

【シナリオB】

(場面)

給食後、教室で調子が悪くなったAちゃん。Aちゃんはエピペン®の保有者で、スタッフルームでエピペン®を保管・管理しています。今日は担任の先生は不在です。

(役割)

A ちゃん：食物アレルギー、アナフィラキシーに対してエピペン®対応をするように主治医より指示されている児童

B 先生：たまたまAちゃんを発見（Aちゃんが配慮を要する児童という認識がない）

C先生：隣の教室にいた先生（Aちゃんが配慮を要する児童だとなんとなく認識している）

D君：Aちゃんと遊んでいた児童

(シナリオ)

D君「B先生、Aちゃんがなんか変！」

B先生「どうしたの？大丈夫？」

A ちゃん「…先生、なんかおなかが変…」（元気がない）

B 先生「おなかが変なの？吐きそう？」

A ちゃん「ううん…ゴホゴホ」（咳をする）

C 先生「どうかしましたか？」

B先生「Aちゃん、なんか変なんです。どうしたんだろう？」

C 先生「Aちゃんって、食物アレルギーがあるんじゃないかったですか？…そうだ、エピペン®持ってませんでしたか？」

B先生「えっ？そうでしたっけ？」

A ちゃん（咳込みが強くなる）「ゲホゲホ…」

B 先生「なんかよくわかんないですけど、保護者に電話しましょう……あれ？電話でませんね…」

A ちゃん「えらいよ…」（ぐったりする）

B 先生「これって、エピペン®使った方がいいんですかね？今日は担任の先生いないんですけど」

C 先生「私、園長先生を呼んできます！」

B 先生「どうしよう。お腹が苦しそうだし、顔色も悪くなってきたし…。」

